

軍事政権の「言論弾圧」で投獄されても、記者たちは果敢に挑戦した。社会で何が起きているのか。事実を知りたい、知らせたい。その生き証人の韓国人ジャーナリスト2人が、「過去」を振り返り、民主化された「いま」を語る。

民主化の申し子、ハンギョレ新聞を創刊

任在慶 (イム・ジェギョン) さん

朝鮮日報記者を経て1974年韓国日報に移った。1974年「民主回復国民宣言」、1980年には新軍部を糾弾した「知識人134名時局宣言」に参加し、韓国日報を解任、投獄される。1984年民主言論運動評議会の結成に参加した後、民主言論市民連合にて共同代表、指導委員、理事などを歴任。1987年に「国民会議」共同代表として、6月民主抗争に参加し、1988年ハンギョレ新聞の創刊に参加、論説顧問などを歴任。1936年生まれ。



「1987」民主化の契機、拷問死事件を暴く

李富栄 (イ・ブヨン) さん

東亜日報記者時代、自由言論実践宣言をし、1975年解職、投獄された。以後、民主統一民主運動連合を担い、1986年の5.3仁川事態などで5回服役。永登浦刑務所ではソウル大生水拷問致死犯の捜査官と同じ棟に収監され、事件の真相を知る。この事実はカトリック司祭を通じ、光州民主化抗争7周年の集会で明らかにされた。この経緯は映画「1987 ある闘いの真実」に詳しい。90年以降、政界に転身。1942年生まれ。



韓国民主化とメディア

7月 **3** 日 (水) 午後6時~9時 (午後5時40分開場)

北海道大学学術交流会館第1会議室 (北区北8西5)

(北大正門から30m左手、札幌駅北口から徒歩5分)

入場無料 (ただし学生以外の方は資料代として300円いただきます)

第1部 報告「言論人の闘い」

「ハンギョレ新聞の意義」 任在慶さん (ハンギョレ新聞創設メンバー、元副社長)

「獄中闘争を乗り越えて」 李富栄さん (元東亜日報記者、自由言論実践団理事長)

第2部 鼎談「市民メディア運動の道」

コーディネーター ^{ヒョン・ムアン} 玄武岩さん (北大メディア・コミュニケーション研究院教授)

主催: 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター

共催: 日本ジャーナリスト会議北海道支部、メディア・アンビシャス

後援: 北海道新聞社、毎日新聞社北海道支社ほか在札新聞各社

問い合わせ090-9755-6292 (山本)